



センターニュースをお読みの皆様へ

猛烈に暑い夏が漸く終わりに近づいたと思ったら、積乱雲や台風による大雨が頻発し、落ち着かない毎日が続きますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。センターでは、様々な災害発生にそなえ各部署及び全体での防災訓練を定期的に行っていますが、災害発生は日中の時間帯に限るものではなく、いくらシミュレーションを行っても万全な対策はあり得ません。立地条件・建物の構造など変えることができない要素も大きいのですが、小さなことから気づいた

問題を改善していくことが大切です。スポーツの世界に“勝敗は細部に宿る”という言葉がありますが、これは防災対策さらに診療・介護にも共通することだと思えます。引き続き皆様に安全にご利用いただけるように努力いたしますので、よろしくお願いいたします。

副院長
高山 真一郎

第3病棟

二十歳のお祝いを実施しました

8月19日（月）、二十歳のお祝いを開催しました。今年二十歳を迎えられた方は、センター全体で1名です。「マジックにじいろ」さんによるお祝いの演奏では、お母様が「赤ちゃんのころにこの曲を聴いて寝ていた。」と教えてくださった『ブラムスの子守歌』、学校時代にご本人様がお好きだった宮沢賢治の『星めぐりの歌』など思い出の曲を、ギター・オカリナ・アコーディオンの優しい音色で奏でて下さいました。お祝いの言葉や記念品を一つ一つ受け取られ、お母様から生

まれた時のエピソードも伺い、ご本人様とご家族様にとって、特別な一日になったのではないかと思います。帰棟後は、たくさんのハートでご本人様を囲んでお祝いしました。
(療育主任 宮沢 直美)



デイケアセンター

夏イベントを実施しました

昨年まで青年部のナイトケアとして行っていました。今年度より夏イベントと名前が変わり、デイケア全体の行事になりました。今年の夏イベントのテーマは「宇宙」、参加する利用者様は月面探査の隊員となり、隠れている宇宙人や行方不明になった隊員を探すイベントを楽しんだ後、宇宙服を着こなしてカッコいい、可愛い写真を撮りました。撮影後は写真のフレームをデコレーションして、当日に持ち帰りました。プラネタリウムゾーンでは部屋全体をブラックライトで照らし、幻想的な天の川、星々が浮かび上がっていました。同じ空間には地球や月の映像をマットに降りて

リラックスしながら眺めて宇宙旅行気分を味わうことができました。青年部だけでなく幼児部や放課後等デイサービスの利用者様も一緒に楽しむことができ、夏のデイケアの全体イベントとして来年も行っていきたいと思えます。
(介護福祉士 松田 智弘)



島田療育センター わいわい祭り 2024



9月14日(土)毎年恒例のわいわい祭りを開催しました。今年のお祭りは、感染対策と新センター建設工事を考慮し、2つの会場でイベントを企画しました。外来とデイケアセンターの利用者様を対象にした地域エリアと入所利用者様用の入所エリアに分けて、会場内に音楽コンサート・ゲームコーナーの他、地域の福祉事業所による物販コーナー、デイケアセンターによる「なんでも屋」とほっとステーションによる「ほっと屋さん」による作品の展示販売コーナーを設けました。それに加え、各病棟にはイベントチームが出向き、棟内でも音楽やゲームを楽しんでいただきました。

音楽コンサートのためにお招きしたグループは、

多摩市を中心に活躍しているご当地アイドルの「ディゼール」、長年に渡り演奏に来ていただいている「多摩スマイル吹奏楽団」、お祭りには欠かせない存在になった和太鼓奏者「風鼓」の皆様です。コンサート会場以外にも各病棟内に素敵な装飾が施され、お祭りを盛り上げる雰囲気が見受けられました。

毎年大勢の方々が参加する祭りですが、「島田療育センターを守る会」の皆様の存在は大きく、今年は80名近いボランティアの方々が来所し、環境整備・各種のゲームコーナーや病棟内イベントの盛り上げに貢献していただきました。

他にも、イベントのお手伝いをしていただいた「めぐみ会」、かき氷や氷の彫刻・氷柱の「中央冷凍産業」の方々にもわいわい祭りを支えていただきました。その他、各種協賛をいただいた企業の皆様はこの場を借りて感謝を申し上げます。

(わいわい祭り準備委員 清水 信夫)

地域の方向け



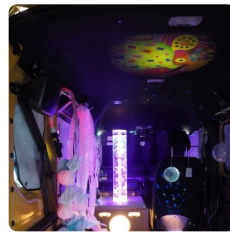
福祉事業所による物販



氷の彫刻の展示



かき氷



スノーズレン体験



多摩スマイル吹奏楽団による演奏



ジャンパチンコやピコピコゲームなどが楽しめるゲームコーナー



せんぷり大会



ゲームコーナー



氷柱展示



ほっと屋さんの作品販売

入所利用者向け



お祭り開始を盛り上げる和太鼓演奏



各病棟への訪問イベント



あてゲーム



あそびのむし体験



ご当地アイドル ディゼールによるコンサート



お祭りの締めには和太鼓パフォーマンス

家族向け発達支援講座

吃音のはなし

家族向け発達支援講座「吃音のはなし」を開催しました。吃音とは、言いたいことが頭に浮かんでいるのに、滑らかに言葉が出てこない症状のことです。吃音が始まる原因は、家庭環境やストレスではありません。今回の講座では、吃音のあるお子さんのご家族を対象に、吃音の基礎知識、お子さんとの関わり方のヒント、そして吃音のあるお子さんが安心して過ごす環境を作ることの大切さについてお話ししました。参加された方から「吃音の原因は親のせいではないと聞き、胸のつかえがとれたように感じた」という感想を頂きました。今回の講義が、ご家族の不安な気持ちを少しでも和らげるきっかけになれていたら嬉しいです。

吃音のあるお子さんのグループ活動も同時開催しました。ゲームや制作活動を通して、自分と同じように吃音があるお子さん同士が安心した表情を見せながら、楽しい時間を共有する姿がとても印象的でした。「また集まりたい!」というお子さんの素直な言葉に、温かい気持ちでいっぱいになった会でした。

(言語聴覚士 小野村 菜穂)



職員向け研修紹介

食べるプロジェクト

今年度より、療育部、医務部、言語聴覚療法科が共同して、利用者様の「食べる力」を支えるための職員研修「食べるプロジェクト（食べプロ）」が始まりました。研修は、全6回。1年かけて「口唇閉鎖」「食事姿勢」「介助法」「誤嚥」「食具・間接訓練」「栄養摂取」について学び、受講したその日から実践できる知識やスキルの獲得を目指しています。

研修に先立ち、食事支援に関する職員アンケートを実施しました。その結果、「職員自身の食事介助技術への不安」が最も多く、日々不安を感じながら食事介助をしている職員が多いことが分かりました。職員の不安を解消し、ベテラン職員も新職員も自信をもって利用者様の「食べる力」を支えていける施設でありたいと願っています。高齢化により、お口からおいしく、安全に食べることができる利用者様は、年々減少傾向にあります。利用者様の食べる力を支えるために、私たち職員ができることは何か。研修を通して改めて考えていきたいと思っています。

(言語聴覚療法科科長 池上 陽子)

なぜ口唇閉鎖が必要なのか？

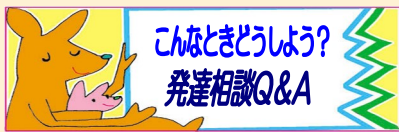
取り込み(捕食)時
口唇をしっかり閉じることで、スプーン上の食物をしっかり取り込むことができる

処理時
口唇をしっかり閉じることで、食物が口腔内で舌で食物を押しつぶしたり、奥歯に送ることができる

嚥下時
口唇をしっかり閉じることで口腔内圧が高まり、食道へ送り込むことができる

食べプロのテーマ(予定)

- 『口唇閉鎖』について ☞ 今回のテーマです
- 『食事姿勢』について
- 『介助法』について
- 『誤嚥』について
- 『食具・間接訓練』(ハンゲード法、ガムラビングなど)
- 『栄養摂取』について



お子様の発達について、こんなご心配はありませんか？

このコーナーはネットワークしまだで連載していた、親御さんからの発達についてのご質問やお悩みに対して専門職が対応方法をご説明するコーナーです。バックナンバーは島田療育センターのホームページでもご覧いただけます。

Q

いつも動き回っていて落ち着きがなく、じっとしていることが苦手です。どうして落ち着かないのでしょうか？

A

多動傾向のあるお子さんは、単に“躰の問題”として捉えてしまうことも多いのですが、感覚の視点からお子さんの特性を考えることも大切です。人は環境から様々な情報を感覚として取り入れて、その環境に適応したり、働きかけたりします。感覚は、いわゆる五感(触覚・聴覚・視覚・嗅覚・味覚)以外にも、体の傾き(バランス)やスピードを感じ取る前庭覚や、筋肉や関節の動きを捉える固有覚という感覚もあります。落ち

着かないお子さんの中には、前庭覚や固有覚の情報がうまく取り入れることができず、脳の最適な活動水準を保てずに刺激をより取り込もうとして、結果多動に見えることがあります。着席を促すならお子さんが興味を持って集中しやすい課題提供も大切ですが、前庭覚や固有覚刺激をたくさん取り入れて感覚を満たしてあげる時間も大切です。活動としてはトランポリンやブランコなどの遊具、他にも手押し車や雑巾がけ、綱引きなどもお勧めです。できるところから始めてみてください。

(作業療法士 中藤 光也)



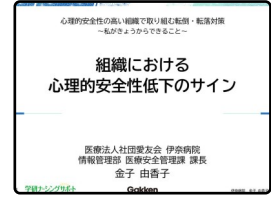
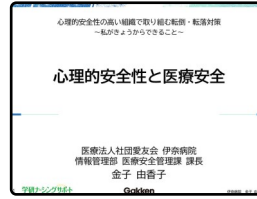
医療安全委員会

全体研修を実施しました

7、8月の2ヶ月間で全職員を対象に2024年度第1回医療安全講習会をeラーニングにて開催しました。「心理的安全性と医療安全」「組織における心理的安全性低下のサイン」という2つの講義で、質問や相談をしやすく、意見交換が活発に行えるような風通しの良い職場環境を

作る事がチームの生産性を高め、インシデントを減らす事に繋がるという事を学びました。

(医療安全委員 中野 智子)



2023年度

事業活動計算書

勘定科目	本部拠点	多摩拠点	はちおうじ拠点	合計
サービス活動収益計(1)	23,857,497	4,145,198,055	586,361,805	4,755,417,357
サービス活動費用計(2)	29,434,695	4,067,585,470	567,380,597	4,664,400,762
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	-5,577,198	77,612,585	18,981,208	91,016,595
サービス活動外収益計(4)	160,916	10,918,590	1,198,136	12,277,642
サービス活動外費用計(5)	0	1,406,327	10	1,406,337
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	160,916	9,512,263	1,198,126	10,871,305
経常増減差額(7)=(3)+(6)	-5,416,282	87,124,848	20,179,334	101,887,900
特別収益計(8)	0	103,673,050	586,520	104,259,570
特別費用計(9)	0	9,056,001	429,007	9,485,008
特別増減差額(10)=(8)-(9)	0	94,617,049	157,513	94,774,562
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	-5,416,282	181,741,897	20,336,847	196,662,462
前期繰越活動増減差額(12)	124,249,017	2,719,216	256,734,778	383,703,011
当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	118,832,735	184,461,113	277,071,625	580,365,473
基本金取崩額(14)	0	0	0	0
その他の積立金取崩額(15)	0	0	0	0
その他の積立金積立額(16)	0	112,000,000	5,400,000	117,400,000
次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	118,832,735	72,461,113	271,671,625	462,965,473

お知らせコーナー



家族向け発達支援講座

—詳細・お申し込みはQRコードから—

講座6 思春期のより良い親子関係のために
～上手な関わり方のヒント～

日時 2024年11月25日 10:00～11:30
対象 小学校高学年～高校生の保護者
会場 関戸公民館 第三学習室



第19回心理講演会 (オンライン講座)

『令和型不登校』の多様な理解と家庭と学校に期待される支援について

日時 2025年1月19日(日) 13:00～15:00
オンデマンド配信期間: 1月19日～2月2日
講師 新潟大学人文社会学系教授 神村栄一先生
費用 1,100円 (Peatixでお申し込み・参加費納入)

季節の彩り

当センター最大のイベントである「わいわい祭り」を可愛らしい装飾で表現していただきました。今では触って遊べる装飾も登場しています。工夫の凝らされた飾りを見に来てください。



発行者 社会福祉法人 日本心身障害児協会 島田療育センター
〒206-0036 東京都多摩市中沢1-31-1

TEL 042 (374) 2071 (代表)

URL <https://www.shimada-ryoiku.or.jp/tama/>

スマホの方は
こちらから

